

計画1【2年次に『2年次目安の題材』,3年次に『3年次目安の題材』を使用する計画】

第2学年		年間35時間 ・3学期制(1学期12時間・2学期14時間・3学期9時間) / 2学期制(前期18時間・後期17時間) ・前期12時間の後,夏休みが入る想定				
学期	時数	題材	ページ	主な活動	備考	
1学期 12時間	前期 18時間	2	感じたことを話し合おう 朝起きてから夜眠るまでの美術	2-4 5-7	鑑賞 鑑賞	
		4~6	空想の世界を旅する あれ? どうなっているの	8-11 12-13	絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		4~6	メッセージを伝えるポスター	50-53	デ・工 [描く]	
2学期 14時間	前期 14時間	4~6	想像の生物をつくる 発想のためのスケッチブック ひびのこづえ	20-21 78-79	絵・彫 [つくる] 鑑賞	
		1	原寸大で鑑賞しよう 灰色のフェルト帽の自画像	24-25	鑑賞	
	後期 17時間	4~6	みんなのためのデザイン 心をともしあかり	56-57 60-61	デ・工 [つくる] デ・工 [つくる]	いずれかの題材を指導
		4~6	墨の世界を体感しよう 浮世絵から学ぶ江戸の職人技	18-19 22-23	絵・彫 [描く] 絵・彫 [描く]	いずれかの題材を指導
3学期 9時間	後期 17時間	3~5	情報を整理して伝える 暮らしの中のキャラクター	54-55 58-59	デ・工 [描く] デ・工 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		3~5	見方を変えて 情景, 気持ちを重ねて	14-15 16-17	絵・彫 [描く] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		1	北と南の風土から 絵巻物を楽しむ	62-63 101-103	鑑賞 鑑賞	いずれかの題材を指導

※「いずれかの題材を指導」では,複数の近接した題材の中から教師が一つに絞ったり,関連して指導したりすることによって,題材の時間を確保することができる。

「朝起きてから夜眠るまでの美術」(P5~7) オリエンテーションのねらいと指導のポイント

「朝起きてから夜眠るまでの美術」は,美術で学ぶことが毎日の暮らしの中で出会うさまざまなものと関係していることを発見し,今後の美術学習への意欲を高める導入を意図したオリエンテーションのページである。

生徒の中には,美術は特別なものであり,自分の生活や将来とは関係がない教科だと誤解している生徒もいる。また,絵や彫刻などが美術だという狭い考え方をもつ生徒も少なくないだろう。

そこで,ここでは事前に生活の中で「美術」を感じさせるものを見つけてくることを生徒に指示しておく。そして授業の時に,それぞれが見つけてきたものを持ち寄り,報告し合うようにする。

大きなものは,広告などのチラシや場合によっては写真でもよいだろう。

生徒は,毎日使う食器や文房具,椅子や机から公共空間まで,生活のさまざまな場面で美術が関係していることに気づき,驚くはずだ。暮らしや社会とのつながりをP.5~7と関連づけてまとめたり,話し合っって新しく図をつくってみたりするのもよい。

この学習を通して,身の回りにある美術について,形や色彩,イメージのおもしろさ,よさや美しさなどに興味をもたせ,生活を美しく豊かにする美術の働きについて理解させるようにしたい。

第3学年		年間 35 時間 ・3学期制（1学期 12時間・2学期 14時間・3学期 9時間）／2学期制（前期 18時間・後期 17時間） ・前期 12時間の後、夏休みが入る想定				
学期	時数	題材	ページ	主な活動	備考	
1 学期 12 時間	前期 18 時間	1	原寸大で鑑賞しよう 鳥獣花木図屏風	48-49	鑑賞	
		4~6	形と色の挑戦 絵や立体が動き出す 光と影で遊ぶ	32-33 36-37 38-39	絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
	4~5	季節感のある暮らしを楽しむ	64-67	デ・工 [描く] [つくる]		
	1~2	暮らしやすい町づくり 夢を形にするデザイン	70-71 72-73	デ・工 [描く] [つくる] デ・工 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導	
2 学期 14 時間	前期 18 時間	1	特別展示室 ゲルニカ、明日への願い	40-45	鑑賞	
		6~8	ともにつくる喜び	46-47	絵・彫 [描く]	
	後期 17 時間	4~8	自画像、今を生きるあなたへ	26-29	絵・彫 [描く] [つくる]	
		1	原寸大で鑑賞しよう 平螺鈿背円鏡	76-77	鑑賞	
3 学期 9 時間	後期 17 時間	3~4	躍動感を捉えて 環境とともに生きる彫刻	30-31 34-35	絵・彫 [つくる] 絵・彫 [描く] [つくる]	いずれかの題材を指導
		4~6	包みの工夫、パッケージデザイン 手づくりに込める思い	68-69 74-75	デ・工 [つくる] デ・工 [つくる]	いずれかの題材を指導
		1	中学校美術、最後の時間に	104-105	鑑賞	

※「いずれかの題材を指導」では、複数の近接した題材の中から教師が一つに絞ったり、関連して指導したりすることによって、題材の時間を確保することができる。

「中学校美術、最後の時間に」 (P104~105) 題材のねらいと指導のポイント

「中学校美術、最後の時間に」は、描かれている人物に自己を投影し、3年間の中学校生活を顧みる鑑賞の題材である。授業の導入で、「ここはどんな場所だろう?」「この人は何を思っているのだろうか?」と問いかけ、自分の生活経験や価値意識を基に、鑑賞することに関心をもたせる。生徒は、自分の成長や変化、美術を通して学んだことなどを、描かれている人物と自分を重ね合わせて鑑賞し、これからの自分の進もうとする道に思いを馳せることができるだろう。

卒業を控えて気持ちが不安定になりがちなこの時期に、集中して絵を見つめ、描かれた人物に自分を感じ、深く静かに自己を見

つめることは有意義な経験である。それは、美術を通じた自己理解が促される経験ともいえよう。また、作品から感じ取ったことや考えたことを話し合うことにより、生徒間に共感が生まれ、相互理解がなされたりすることも美術による学びの大切な点であり、これらのことを十分に意識して指導に当たりたい。

授業のまとめとして、美術作品は作家の創作物でありながら、鑑賞者それぞれに固有の意味を生み出す存在であることへの理解を深めるように指導する。そして、美術文化を愛好する心情を育て、それらを大切にするとともに自らの人生をより充実したものにしようとする態度を深めさせたい。